

第4 鶏

2章 信州黄金シャモ衛生管理マニュアル

信州黄金シャモ飼育の統一基準で定められている衛生管理は下記の2項目です。

最寄りの家畜保健衛生所と協同して、防疫対策に取り組んでください。

(1) サルモネラ検査

家畜保健衛生所による導入一か月以降のロット毎の排泄便及び環境材料（塵埃等）をサンプルとした検査の実施

(2) 伝染性疾病及び人獣共通感染症対策

家畜保健衛生所の指導に基づく徹底した防疫対策の実施

鶏には多くの伝染性疾病があり、鶏飼養者は衛生対策に細心の注意をはらう必要があります。鶏の病気やその予防対策の詳細については、最寄りの家畜保健衛生所の指導を受けてください。

【鶏舎の消毒】

鶏の飼育は、羽数が少ないときは特別な病気の発生も少なく発育も順調に進み比較的簡単です。しかし、飼育羽数が多くなったり、飼養年数が経過した場合には病気の発生が多くなります。連続して飼育している場合の鶏舎の消毒について以下に記載します。

(1) 清掃・洗浄・消毒

① 消毒薬の効果を十分に発揮させるため、洗浄前に、鶏糞などを可能な限り取り除きましょう。

今まで飼っていた群を出荷したらなるべく早く鶏糞を搬出します。取り外せる器具類はすべて舎外へ出しましょう。一般に消毒薬の効果は、鶏糞など汚物の存在下では減弱する傾向があるので、消毒前の清掃と洗浄によって十分に汚れを除去する必要があります。鶏糞や敷料を除去する前に、消毒液を軽く散布しておくことで塵埃が舞い上がりません。消毒薬をかなり大量に散布した後で、一夜放置して鶏糞を軟化させるとはがしやすくなります。

② 消毒薬を使う前に、水で十分に洗浄しましょう。

水洗いは、なるべく高圧動噴ポンプ等を用いて60ℓ/坪以上の十分な水量で行いましょう。床面は汚れが落ちにくいので、水洗い後、数時間おいて再度行います。なお、高圧動噴ポンプだけではなく、ブラシ等でこすると、より効果的です。

③ 消毒は鶏舎を十分に乾燥させてから行いましょう。消毒薬は、希釈倍率などの使用方法を守って使いましょう。

床面や壁面に微細な孔が無数にあり、その中に細菌やウイルスが存在し、水洗後は孔に水が充満するため、水で希釈されてしまいます。水洗後は少なくとも一昼夜放置してから消毒薬を散布しましょう。消毒液の量は5ℓ/坪以上とし、表面がしっかりと濡れるまで散布しましょう。散布の際には、安全のための、防毒用マスク、防護眼鏡、ゴム手袋、防水作業服を着用し、換気にも注意しましょう。

消毒薬はすべての病原体に対し同じ条件で消毒効果を発揮することはできないので、使用書に従い、状況に応じて使いましょう。1種類の消毒薬だけではすべての病原体に対して効果が得られないため、消毒薬の種類を変えて2回目の消毒を行いましょう。表1に主な消毒薬の特性と対象物、表2に消毒の実施上の注意事項について示したので参考にしてください。

表1 養鶏施設施用の主な消毒薬の特性と対象物

消毒薬	有機物による影響	金属腐食性	対象物
塩素剤	効力減少	あり	鶏舎、機材
オルソ剤	少ない	あり	鶏舎、機材
逆性石けん	効力減少	なし	鶏舎、機材、手足
両性石けん	効力減少	なし	鶏舎、機材、手足
生石灰・消石灰	なし	なし	運動場等の土壌

表2 消毒の実施上の注意事項

消毒対象	手順	使用薬剤	実施上の注意点
オールアウト時の鶏舎消毒	消毒液軽く散布 ↓ 除糞清掃 ↓ 水洗 ↓ 乾燥 ↓ 消毒液散布 ↓ 乾燥 ↓ 再消毒	舎内全般 逆性石けん 両性石けん	洗浄水量60ℓ/坪以上 消毒液量5ℓ/坪以上
	平飼い土間、 運動場の場合	生石灰又は消石灰	1kg/坪 空舎期間中に土壌反転を実施し石灰を散布
給餌器・給水器	洗浄 ↓ 消毒液浸漬	逆性石けん 両性石けん	流水又は十分な水量の中でブラシ洗い 薬液槽は十分な大きさが必要

① 敷料と土壌の消毒をしましょう。

敷料の消毒には、毒性や刺激性が低い逆性石鹸などを用いましょう。土壌の消毒には石灰を用いて1kg/坪の量で撒き、石灰と土壌をよく混合しましょう。混合できないなら、石灰乳を10ℓ/坪の量で塗布し、地面の表面を完全に覆うとよいでしょう。

② 消毒後も鶏舎を十分に乾燥させましょう。

入雛3日前までには準備をすべて終了させ、入雛までは鶏舎内へ風を良く通して乾燥させておきましょう。

【ワクチン】

(1) ワクチンの接種

畜産試験場におけるワクチネーションプログラムを表3に示しました。畜産試験場から出荷される雛（約30日齢）は、これらのワクチン接種を実施してあります。初生雛で導入する場合は、表3に示す確実なワクチン接種を実施してください。なお、ワクチン接種に当たっては、獣医師の指示のもと実施してください。

また、図1に示したように、雛のニューカッスル病（ND）に対する抗体価は、50日以降において、感染防御に必要な抗体価を下回ってしまうことが確認されています。そのため、飼育者の段階においても、60～70日齢頃にニューカッスル病（ND）のワクチンを追加接種することが必要です。追加接種の際は、図2・3に示したように、1羽ずつ保定して点眼する方法をとることで、より確実なワクチン接種ができます。

表3 信州黄金シャモ ワクチネーションプログラム

日 齢	ワクチン(対象疾病)	接種方法
0	MD生 (マレック病)	皮下注射
0	FP生 (鶏痘)	翼膜穿刺
7	NB生 (ニューカッスル病、伝染性気管支炎)	飲 水
14	IBD生 (伝染性ファブリキウス嚢病)	飲 水
21-28	NB生 (ニューカッスル病、伝染性気管支炎)	飲水または点眼

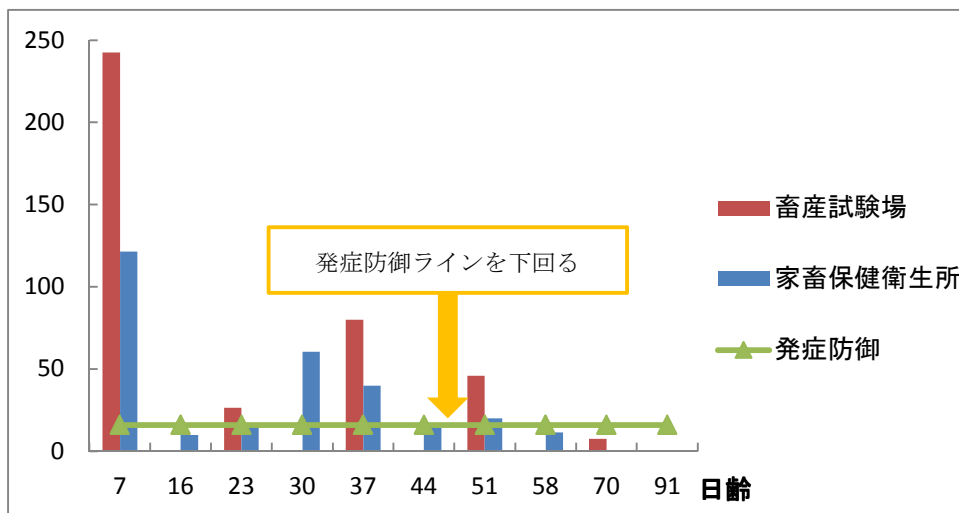


図1 信州黄金シャモ ニューカッスル病抗体価推移



図2 ワクチンの点眼による接種
(21～28日齢)



図3 ワクチンの点眼による接種
(60～70日齢)

(2) ワクチンの飲水投与に先立って、しっかりと絶水処置を実施しましょう。

ワクチンの飲水投与法は、鶏にストレスを与えず、省力的な方法ではありますが、雛の強弱、飼育密度などによって十分な飲水ができない場合には、雛の免疫が不揃いになる欠点があります。また、ワクチンを飲水投与する際に、事前の絶水処置が適切に実施されていなかったり、ワクチンが含まれていない水を放置しておく、鶏の喉の渇きが不十分となり、ワクチンが含まれた水を十分に飲水させることができなくなります。ワクチンの飲水投与が不十分であると、疾病に対する抗体価に個体ごとのばらつきが生じ、群全体の感染防御が不十分となり、重大な疾病に罹病する可能性があります。このような免疫むらを無くすためには、全ての雛が十分に飲水できるように給水器を設置し、雛が1～2時間で飲み終える程度の水量で必要量のワクチンを希釈して与えましょう。



図4 飲水投薬の不適切な例
飲水器の周囲の雛の数がまばら



図5 飲水投薬の適切な例
飲水器の周囲に雛が群がっている

(3) 経口ワクチンに使用する水の汚染にも注意しましょう。

ワクチンを希釈する水は、ワクチンウイルスを死滅させることがないよう、酸性やアルカリ性の強いものは避けましょう。普段は消毒した水を使っているとしても、経口ワクチン投与の際に消毒していない水を使うと、病原体を口から摂取してしまう恐れがあります。そのため、消毒のための塩素が含まれている水道水を使用しましょう。水道水はそのまま使用すると、含まれている塩素のためにワクチンが死滅してしまいます。一晩貯水するか、チオ硫酸ナトリウム（ハイポ）を5ℓに0.1gの割合で添加するか、純脱脂粉乳を0.5%の割合で加えるなどして、塩素を除去あるいは中和して使用しましょう。なお、中和した水を使うことができない場合には、ワクチンの接種方法を変更できないかを獣医師に相談しましょう。

【コクシジウム病】

地鶏は平飼いで飼養されるため、コクシジウム症の発生が起こりやすくなります。コクシジウム症は、寄生虫の感染により起こる伝染病で、原因寄生虫に感染した鶏は、血便を排出して高率に死亡します。日頃から敷料の状態を注視し、敷料が血で汚れていたり（図1）、血便が認められた場合は、直ちに投薬治療を行うか、家畜保健衛生所に連絡し、指導に従ってください。



図6 敷料に付着した鮮血便

家畜伝染病予防のための飼養基準や、生産現場における食中毒予防の対策については、農林水産省のホームページで紹介しております。ぜひ、ご覧いただき、各々の農場の状況に適した衛生対策をご検討ください。

農林水産省

【飼養衛生管理基準（鶏その他家きん編）】

http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/eisei/e_koutei/kaisei_kadenhou/pdf/tori_pam.pdf

【鶏肉の生産衛生管理ハンドブック】

<http://www.maff.go.jp/j/syouan/seisaku/handbook/pdf/tori.pdf>